

立命館宇治中学校・高等学校 2021 年度学校目標年度末報告シート

教育目標

- ① 国際化教育：高い外国語運用力と広い視野をもって異文化を理解できる能力の育成
- ② 情報化教育：情報機器を活用し、情報の受信・発信する能力の育成
- ③ 統合と卓越の教育：統合された知識と卓越した能力の育成
- ④ 貢献：高い倫理観をもち、社会・世界に貢献できる姿勢の育成

中期目標

- I. 豊かな教養と確かな学力を身に付け、主体的に学び・考える姿勢をもった生徒の育成
- II. 高い外国語運用力と広い視野をもって、異文化を理解できる能力をもった生徒の育成
- III. 高い倫理観と規範意識を備え、強い責任感で社会や世界に貢献できる生徒の育成
- IV. 向上心を持って自己研鑽に努め、協働のもと新しい学校づくりを目指す教職員集団の形成
- V. 地域・保護者との信頼関係に裏打ちされた学校ブランド力の確立と生徒募集力の向上
- VI. 魅力ある教育を支える体制や生徒が安心・快適に学ぶことができる学習環境の整備

I. 豊かな教養と確かな学力を身に付け、主体的に学び・考える姿勢をもった生徒の育成

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	自立した学習者の育成	(1)	各教科で学力の数値目標（定期試験・模試・検定）を設定し、達成の確認を行う。	△
		(2)	学年・コース毎で生徒の家庭学習時間を向上させる取り組みを強める。	○
		(3)	生徒が授業に能動的主体的に参加する工夫を行う。	◎
		(4)	校外の人材・組織・機関と連携し、社会の到達点を体感できる教育を行う。	○
		(5)	教科の学びを啓発する図書館運営を行う。	○
2	特色ある教育プログラムの開発と普及	(1)	新しいグローバル教育モデルを構築する。（WVL コンソーシアム AL ネットワーク構築事業）	◎
		(2)	教科横断による「コア探究」の教育プログラムを創り上げる。（WVL カリキュラム開発事業）	◎
		(3)	文科・理科コースの取り組みのストリームへの移行。	○
		(4)	IM コースの留学を土台とした人材育成プログラムの充実。	○
		(5)	IB コースの到達点の維持と中学 IPS の拡充。	◎
		(6)	ICT 活用による学びの質的転換と教員の作業合理化	○
3	大学と連携した長く広い視点を持った進路指導	(1)	大学学部との連携・接続教育の実施	△
		(2)	適切な進路情報の提供とサポート	○
		(3)	国際系学部・海外大学への進路指導の対応	○

II. 高い外国語運用力と広い視野をもって、異文化を理解できる能力をもった生徒の育成

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	異文化体験の充実	(1)	安全に留意し、質の高い留学派遣を実施する。	○
		(2)	海外研修旅行の安全な実施。	×
		(3)	積極的に留学生の受け入れを行い、留学生の学びの満足度も高める。	○
		(4)	学校内外での多様な異文化体験の機会を設定する。	○
2	帰国生支援	(1)	帰国生への情報提供ときめ細やかな支援を行う。	○
3	高い語学運用能力の養成	(1)	高い語学力を持つ生徒のさらなる引き上げ	○
		(2)	全体水準の引き上げと大学が求める水準の全員クリア	○
		(3)	英語を活用した取り組みの開催。	△
		(4)	第二外国語の取り組み強化と情報発信。	△

III. 高い倫理観と規範意識を備え、強い責任感で社会や世界に貢献できる生徒の育成

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	オープンマインド 醸成と学校全体の 一体感	(1)	学年・コースさらには学校全体で共に存在している実感が得られる取り組みの実施	○
		(2)	気持ちよく挨拶できる雰囲気形成	○
		(3)	教室清掃・持ち物の管理・正しい制服の着用など凡事の徹底	○
2	生徒が自ら主人公 と思える学校運営	(1)	生徒会、ホームルーム運営委員会など生徒の自主的組織の活動量の増加	○
		(2)	学園祭を大きな節目とする組織運営	◎
3	生徒の自主活動・ 貢献活動	(1)	枠組みを超えて互いの奮闘を励ましあえる関係づくり	○
		(2)	生徒の能力を引き出す指導方法の研究	◎
4	人権意識の涵養	(1)	視聴覚行事の実施	○
		(2)	インターネット・SNS との関係性を学ぶ機会の提供	○
		(3)	非行・いじめの早期発見と適切な対応	△
		(4)	平和や人権・環境を考える取り組み	○

IV. 向上心を持って自己研鑽に努め、協働のもと新しい学校づくりを目指す教職員集団の形成

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	成長する教員集団	(1)	研修（校内・校外）での実施・参加	◎
		(2)	研究授業・公開授業・研究会の実施	○
		(3)	経験の浅い教員への支援	○
2	働き方改革の段階 的進行	(1)	チームワークと仕事の合理化（勤務時間の測定）	○
		(2)	休日・休養日の確保（年休5日取得）	◎

V. 地域・保護者との信頼関係に裏打ちされた学校ブランド力の確立と生徒募集力の向上

中位目標		達成目標（当年度目標）	評価
1	地域連携	(1) 土曜市民講座・スポーツ教室・小学生体験講座の実施	△
		(2) 公共交通機関利用マナー向上	○
2	保護者連携	(1) 丁寧な懇談会・説明会の実施による相互理解の促進	◎
		(2) 保護者アンケート・生徒アンケートでの実態把握	○
3	同窓会	(1) 学校とのつながり強化	◎
		(2) 卒業生の活躍の広報	○
4	生徒募集	(1) 附属3校の共同歩調を強めた取り組みの展開	×
		(2) WEB 広報の強化	○
		(3) 国内外の募集活動の強化	◎
5	リッツキッズ	(1) 高い能力を持つ英語学習者の誘引	○
		(2) 質の高い低年齢教育の実現	◎
		(3) Kids 経験児童の入学強化	◎

VI. 魅力ある教育を支える体制や生徒が安心・快適に学ぶことができる学習環境の整備

中位目標		達成目標（当年度目標）	評価
1	保健室との密接な連携	(1) ころとからだの健康に配慮した連携	○
		(2) 教育相談・HAT・カウンセリングの体制づくり	○
2	学習環境の整備	(1) ICT 利用の利便性の向上（デジタル採点システムの導入）	◎
		(2) 修繕・危険箇所の集約	○
		(3) 新校舎実現	◎
3	リスクマネジメント力の強化	(1) 避難訓練の実施と防災対策	○
		(2) 避難誘導の見直し	◎
		(3) スポーツ活動中における迅速な事故対応（アスレチックトレーナーの配置）	○
4	安心安全の生徒寮運営	(1) 学習する雰囲気づくりとイベントを通じた寮生自治組織の充実。	○
		(2) 寮生の健康管理、新型コロナウイルス感染症の拡大予防	◎

達成状況

コロナ2年目の学校運営となった。4月当初は生徒で感染者が出たため、オンラインなどの対応が必要であったが、9月以降（第5波、第6波）は概ね平常運転で授業・行事などを実施してきた。

新カリキュラム2年目を迎えて、コア探究やWMLなど本校の特徴的な取り組みの中からたくさんの社会的評価を受ける実践が生まれた。

改善策

2022年度から導入される高校での観点別評価について、安定した評価基準にむけての検討を進めてきた。実際の導入によって矛盾が生じないように、引き続き検証していく必要がある。また、「学力」の基準が変化していくことへの共通理解を促進していくことも求められている。

働き方改革（移行措置）の最終年度を迎え、現行労働法制と教員の業務をどのようにすり合わせていくのか、模索が必要である。

学校関係者評価に関する事項

<p>委員会 構成</p>	<p>亀田晃巖 氏（唯明寺住職） ， 山仲修矢 氏（教育後援会会長） ， 出雲健彦 氏（鳳凰会会長） ， 宇和村哲明 氏（保護者会会長） ， 上田亜季 氏（保護者会副会長） ， 奥野 寛 氏（保護者会副会長） ， <u>横澤広久 氏（一貫教育部部長）</u> ， 森田真樹 氏（立命館大学大学院教授） ， 浮田恭子 氏（宝塚大学准教授） ， チャールズ・フォックス 氏（前校長） ※ 下線は欠席</p>
<p>開催日程 主な議題</p>	<p>2022年3月29日（火）14:00～16:00 「2021年度学校総括について」</p>
<p>評価・改善 事項</p>	<p>コロナ禍の中での学校運営について、概ね高い評価をいただいた。他校と比べても登校を維持し、教育を継続しようとする努力が感じられる。生徒募集も好調である。IBの考え方は、他コースも含めて本校教育の核となる部分であり、文部科学省が評価の在り方を変えてきていることもふまえて、もっとIBの理念を普及させる先頭になることが、本校には期待されている。お金や資産に関する教育など、日本では教えられていないことにも積極的に取り組んでほしい。</p>